



営農NEWS



促成キュウリ栽培でのべと病、うどんこ病などの発生に注意し、防除を徹底しましょう

施設のキュウリ促成栽培では、この冬の暖冬と不安定な天候で、施設内の環境制御や肥培管理に苦勞されていることと思います。

病害虫発生予報 1 月号（県病害虫防除所）によりますと、促成キュウリにおけるべと病の発生は、平年並～やや多くなると予想されています。また、施設内が乾燥気味的环境やキュウリが軟弱徒長する時は、うどんこ病が発生しやすくなり、葉裏や枝葉の込み合っている場所から急激な進展のみられることがあります。

このため、今後とも適正な整枝、剪定作業や肥培管理と共に、晴天の日をねらって予防散布に努め、更に、病害の早期発見と発生初期の的確な防除を徹底することが重要になります。

＜防除のポイント＞

- 1 施設内の過湿を防ぐため、気温や風向き等を常に注意して、日中は除湿機の稼働、暖房機の稼働や送風などに努め、適正な温湿度の管理を行ってください。
- 2 株間の通風をよくするための適正な整枝や剪定、樹勢を最適に維持するための適正な灌水や追肥など、常に適切な栽培管理に努めてください。
- 3 発病は、下葉や葉の込み合っている場所の裏葉などを丁寧に観察して、早期発見に努めてください。
- 4 病害発生を確認したら、早期に防除を行ってください。薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが重要で、夕方までには薬液が乾く時間帯に行ってください。
- 5 既に多発生した場合には、発病葉や茎などをできるだけ除去した後に薬剤散布を行い、病患部に薬液が十分散布されるようにしましょう。
- 6 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一系統薬剤の連続散布は避けてローテーション散布してください。

表 1 キュウリべと病の主な防除薬剤（平成 28 年 1 月 6 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害
ランマンフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	
カーゼート P Z 水和剤 ※	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
ジマンダイセン水和剤 ※	600～800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病、つる枯病、黒星病など
アリエッティ C 水和剤	400～800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病
フェスティバル水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
プロポーズ顆粒水和剤 ※※	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	うどんこ病、褐斑病、黒星病
ダコニール 1000 ※※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	うどんこ病、灰色かび病、褐斑病など

注）表 1、2 の※印がある薬剤は有効成分マンゼブを、※※は有効成分 TPN を含みます。キュウリにおける総使用回数に十分注意してください。

表 2 キュウリうどんこ病の主な防除薬剤（平成 28 年 1 月 6 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害
パンチョ T F 顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	灰色かび病、褐斑病
ダコニール 1000 ※※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	べと病、灰色かび病、褐斑病など
ベルコートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	灰色かび病、菌核病、褐斑病など
モレスタン水和剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	コナジラミ類
ファンベル顆粒水和剤	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	灰色かび病、菌核病、褐斑病など
サンヨール	500 倍	収穫前日まで / 4 回以内	べと病、アブラムシ類、ハダニ類など
ハッパ乳剤（なたね油乳剤）	200 倍	— / —	ハダニ類

注）ハッパ乳剤は、発病後の散布では効果が劣るので、発病前～発病初期から予防的に散布する。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040